

# Campus

大学

# Topics

キャンパストピックス

## 学長表彰、学生部長表彰、神谷奨励賞の表彰式、授賞式を挙

### 学長表彰

顕著な課外活動	コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科 4年 鈴木裕之さん	世界ヨーヨー大会1A部門第4位、アジア大会第3位 平成23年度、2つ技でギネス記録を樹立。(次ページ記事参照)
---------	---------------------------------------	--

### 学生部長表彰

中部、関西、東海地区 上位入賞同等以上	ビジネス学部ビジネス学科 4年 永田知里さん	第51回西日本学生バドミントン選手権大会ダブルスの部ベスト16 第62回全日本学生バドミントン選手権大会ダブルスの部出場
	健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科 2年 成田菜以さん	第51回西日本学生バドミントン選手権大会ダブルスの部ベスト16 第62回全日本学生バドミントン選手権大会ダブルスの部出場
	文学部英文学科 4年 小川綾香さん	東西対抗学生競技ダンス選手権大会「サンパ」の部 第1位
	健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科 2年 斎藤優衣さん	第66回国民体育大会冬季大会スキー競技会「あきた鹿角国体2011」 ジャイアントスラローム青年女子Aの部 52位 (福井県代表)
	メディアプロデュース学部 メディアプロデュース学科 2年 野村友香さん	第66回国民体育大会「山口国体」なぎなた競技 成年の部(団体)出場 第45回東日本なぎなた大会 個人試合競技(有段の部) ベスト8
	福祉貢献学部福祉貢献学科 2年 加藤温子さん	第45回東日本なぎなた大会 個人試合競技(段外の部) 優勝
	文学部図書館情報学科 3年 小竹裕加里さん	第15回東海学生チャレンジテニスーナメント大会女子シングルス 優勝 東海学生春季テニスーナメント大会女子ダブルス ベスト16 第61回東海学生新進テニスーナメント大会女子ダブルス ベスト8 (東海女子ランク25位)
	ビジネス学部ビジネス学科 2年 宇根良嘉さん	第15回東海学生チャレンジテニスーナメント大会男子シングルス 準優勝
	ビジネス学部ビジネス学科 1年 加藤大喜さん	第28回オープンナメント全日本ウエイト制空手道選手権大会男子中量級 準優勝 第10回オープンナメント全世界空手道選手権大会男子無差別級 ベスト32
その他	現代社会学部現代社会学科 4年 斎藤菜弥さん	「ワロン50's新しい可能性デザインコンペ」照明部門 優秀賞(第1位)
	現代社会学部現代社会学科 4年 足立紗代さん	「ワロン50's新しい可能性デザインコンペ」照明部門 入選
	現代社会学部現代社会学科 4年 稲吉健さん	「ワロン50's新しい可能性デザインコンペ」照明部門 入選
	現代社会学部現代社会学科 3年 小田正太郎さん	「第18回美濃和紙あかりアート展」一般部門 入選
中部、関西、東海地区 上位入賞同等以上	バドミントン部	第113回東海大学バドミントン選手権大会(春季リーグ) 第114回東海大学バドミントン選手権大会(秋季リーグ) 女子1部6位 男子2部優勝
	チアリーディング部	第16回中部チアリーディング選手権大会 大学部門 優勝 第23回全日本学生チアリーディング選手権 17位(180.0点)
	ラグビーフットボール部	東海学生Bリーグ優勝(A2リーグ昇格)
その他	男子硬式テニス部	東海大学対抗テニスリーグ戦 3部昇格(リーグ数6)
	ビジネス学部ビジネス学科 大塚セミナー 3年 神谷綾乃さん・亀島麻理さん・田中麻莉佳さん・雷永麻未さん	名古屋マーケティングインカレ(日経ビジネス協賛) 優秀賞 日経TESTゼミ対抗戦2011春 第9位
	ビジネス学部ビジネス学科 上原ゼミ 3年 村瀬典子さん・牛田雄貴さん・加藤尚子さん・ 河合拓宏さん・墨裕子さん・福井葉月さん	日刊工業新聞社主催「2011年キャンパスベンチャーグランプリ」 (学生による新事業の提案コンテスト)努力賞

### 神谷奨励賞

文学部	<国文学科>木全加奈恵さん <英文学科>荒木みずほさん <図書館情報学科>山田絢香さん <教育学科>加藤倫華さん
現代社会学部	<フィールドスタディコース>夢田江里さん <メディアプロデュースコース>山内香奈さん <都市環境デザインコース>伊藤真由さん
コミュニケーション学部	<コミュニケーション心理学科>皆川和俊さん <言語コミュニケーション学>高御堂明菜さん
ビジネス学部	<ビジネス学科>小林直矢さん、福井葉月さん
文化創造学部	<表現文化専攻>大田沙織さん <多元文化専攻>寺門陽子さん
医療福祉学部	<福祉貢献学科>林真理さん <言語聴覚学専攻>上田愛実さん <視覚科学専攻>杉江亜紀さん

※学年は23年度のものです



学長表彰

3月13日(火)長久手キャンパスにおいて、平成23年度の学長表彰、学生部長表彰、神谷奨励賞の表彰式、授賞式が行われました。

学長表彰は、毎年優れた学業成績、研究成果、課外活動等において顕著な成績を修めた個人や団体を対象とするもので、今年度は個人1人が表彰されました。

学生部長表彰は、中部、関西、東海地区大会等で上位入賞の成績をおさ

めた者、社会奉仕活動等で顕著な活動を行ったものを対象とし、今年度は個人13人と6団体が表彰されました。

神谷奨励賞は、各学科専攻に在籍する3年生を対象として、優れた学習研究の成果をあげ、学部長の推薦を受けた学生に贈られる賞で、16人の学生が受賞しました。

それぞれの分野で精一杯の努力が認められた受賞者の皆さんのますますの活躍を期待しています。



学生部長表彰



神谷奨励賞



# Campus

大学

# Topics

キャンパストピックス

## 都市環境デザインコース 2012 卒業研究展

この春卒業した鈴木裕之さんは、平成16年から平成18年の世界チャンピオンで、現在はヨーロッパパフォーマーとして国内外を問わず活動しています。平成23年度は、世界ヨーヨー大会1A部門第4位、アジア大会第3位。また、2つの技でギネス記録を樹立し、この度の学長表彰に輝きました(1A部門は競技ヨーヨーの世界で最も競技人口が多い部門)。



卒業研究展の会場風景

この春卒業した都市環境デザインコースの4回生は、各々の専門分野の集大成として約9ヶ月間をかけた「卒業研究」に取り組みました。そして、このうち学内選考を通過した23人の卒業研究は、名古屋市民ギャラリー栄8階にて、学外一般の方にもご覧いただける「愛知淑徳大学都市環境デザインコース2012卒業研究展」として展示発表しました。会期は、2月28日(火)から3月4日(日)までの6日間で、会場計画は出展者が実行委員となり行ないました。本コースの卒業研究は3種別あり、設計12点・制作7点・論文4編が選考され、広く一般の方にも好評いただく貴重な機会となりました。



卒業制作優秀賞及び卒業論文優秀賞受賞者のうち最優秀賞に選ばれた学生たち。名誉教授の吉田邦彦先生と。

園周辺で展開される展示空間の設計『うつろひー光と影の廻廊』、斎藤菜弥さんのうちのLED照明器具シリーズ『BRIGHT』の2点、卒業論文優秀賞は、佐久間千恵子さんの『子ども的人間的成長を促す学校のあり方』福島県西会津統合小学校づくりの事例調査『柴山淳くんの「高強度コンクリート」を用いたプレストレスコンクリート曲げ部材の長期性状に関する研究』の2編に決定しました。卒業生の益々の飛躍が在学生にとつていい刺激であることに違いはありません。今後の活躍を期待したいと思います。

## コミュニケーション学部卒業生、鈴木さんが世界ヨーヨー大会で好成績



この春卒業した鈴木裕之さんは、平成16年から平成18年の世界チャンピオンで、現在はヨーロッパパフォーマーとして国内外を問わず活動しています。平成23年度は、世界ヨーヨー大会1A部門第4位、アジア大会第3位。また、2つの技でギネス記録を樹立し、この度の学長表彰に輝きました(1A部門は競技ヨーヨーの世界で最も競技人口が多い部門)。



鈴木裕之さん  
コミュニケーション学部  
言語コミュニケーション学科4年  
(平成24年3月卒業)

起業し、自身がデザインしたヨーヨーを製造、販売しています。言語コミュニケーション学科で磨いた語学力を武器に、まさに世界を股にかけて活躍しています。今後について尋ねると、「大学で学んだコミュニケーション能力を存分に活かし、ヨーヨーパフォーマーとしての自分を世界に発信していきたい」と力強く語ってくれました。

## 文学部教育学科主催「子どものためのミュージカル」上演

「子どものためのミュージカル」イオンキングダムを長久手文化の家「森のホール」で2月3日(金)に開催しました。台本、演出、衣装、メイク、装置、照明、キャスト、ダンスのほか、伴奏をキーボード、バストラム、グロッケン、ホルン、トロンボーンと、多くの打楽器を用い、皆で協力して考え、良い舞台を創りあげることができました。大震災後、「絆」と「生きる力」ということを耳にする中、さまざまな考え方をお互いに交換することによって、最後には一体となり、教育学科の卒業2回生として、「絆」と「生きる力」をより深められたと思います。また当日は長久手市の小中学校の親子の方々、教育学科の先生方と学生の多数の来場により、盛り上がりしました。

一年間を振り返ってみますと、教員採用試験・卒業論文など、時間的には拘束されないものの、自発的に学ばなければならないことが多く、受験前の孤独感なども緩和されたのではないかと思います。人間はいろいろな「絆」のもとに助けられています。この「絆」をこれからも大切に育て、音楽を「生きる力」の源として「豊かな人生」を送れることを願っております。



## 瀬戸市教育委員会と愛知淑徳大学との連携に関する協定書調印式を開催



学校教育活動等支援ボランティアに関する瀬戸市教育委員会と愛知淑徳大学との連携協定を結ぶ調印式が、3月26日に長久手キャンパスにて開催されました。瀬戸市教育委員会教育長の大澤義洋氏、教育部長の丹羽博氏、学校教育課の谷口亨氏をお迎えし、大澤義洋教育長と島田修三学長の間で調印が交わされました。



愛知県内でも先駆けて教育改革に着手した瀬戸市は、学校教育に関する先進的な取り組みを各学校・教育施設で打ち出しています。そうした瀬戸市の教育現場との連携をさらに強めることは、教職を志して日々研鑽を重ねている学生たちに対し、子どもたちと触れ合う体験学習やボランティア活動などを数多く提供することにつながります。今回の連携協定を機に、より多くの学生たちが教育現場で実践力を養い、次代の学校教育を担う教員として瀬戸市をはじめとする地域社会に貢献していくことが期待されます。

# Campus

大学

# Topics

キャンパストピックス

## 長久手キャンパス アースメック・正門周辺施設 整備工事の地鎮祭を実施



春雨がやさしく降りそそいだ4月23日（月）、長久手キャンパスに新しく建設される施設「アースメック」と正門周辺施設の整備工事に先立ち、地鎮祭が挙行されました。

愛知淑徳大学クリニックの駐車場に設営された祭場には、小林素文理事長や島田修三学長をはじめとする大学関係者16人、設計監理を行う株式会社日建設計と施工を行う清水建設株式会社の方々11人が参集しました。

厳粛な雰囲気の中、すべての祭儀が滞りなく執り行われました。「刈初（かりぞめ）の儀」では、小林素文理事長が力強い掛け声を出しながら神前につくられた盛砂に鎌を入れ、草を刈る所作を行いました。

そして最後に、宮司様からの「本日のお清めの雨でこの地を固め、神々の恵みをいただき、すべての人々に幸多くありますように祈念いたします」というご発声のもと、参列者一同が神酒を拝戴し、工事の安全と守護を祈願して、地鎮祭をめでたく納めました。

## 愛知淑徳大学との高大連携推進に関する協定書の調印式を実施



この3月には「高大連携特別科目等履修制度」と「愛知淑徳大学入門講座」がそれぞれ実施され、愛知淑徳大学入学予定の生徒が多数参加し、ひと足早く大学生活の一步を踏み出しました。

この協定は、同じ学園内にある愛知淑徳大学との今後の教育的連携についてさらなる深化を図ることが目的とされています。具体的には「愛知淑徳大学大學生生活報告会」の実施、「愛知淑徳大学体験講義」への優先参加、「高大連携特別科目等履修制度」の実施、「愛知淑徳大学入門講座」の実施、「愛知淑徳大学見学会」等の実施が計画されており、大學生生活へのスムーズな移行と、大学での充実した学修生活を保障するための方策を愛知淑徳大学と相互に模索し試行していくこととされています。

## Campus Topics

中学校・高等学校

愛知淑徳大学との高大連携推進に関する協定書を取り交わす調印式が、2月23日に校長室にて行われました。愛知淑徳大学高大連携推進委員会委員長小倉音教授、同じく高大連携推進委員会委員小林三太郎准教授と、校長、副校長同席のもと「愛知淑徳大学・愛知淑徳高等学校高大連携推進に関する協定書」が取り交わされました。

## 中国の姉妹校へ教員派遣交流



中国の南京市第一中学と本校は平成13年より姉妹校として提携しています。この10年間で修学旅行での訪問や、教員間の交歓を通して交流を深めてきました。そして3月26日から4月1日までの約1週間、第2回教員派遣交流として中学の長野林太郎先生、高校の広部純子先生が南京市第一中学に派遣されました。

1日目、高校1年生600人を対象に、「日本の高校生生活」と題して愛知淑徳高校の学校生活について映像を交えて紹介しました。質疑応答では日本語で質問する生徒が多く、日本語への関心の高さがうかがわれました。話題になったのは学校の始業・終業時間。生徒から「日本人は短時間しか勉強していないのにノーベル賞受賞者が多い。なぜですか？」という質問も出ました。中国では学力偏重の教育が見直されつつあり、南京市第一中学も学業だけではなく部活動による体力作りや情緒教育を大切にしているそうです。

2日目は以降は日本語の授業をおこないました。ひらがなの発音や成立の経過、簡単な日本語の挨拶などを紹介すると、生徒たちは積極的に発言しました。特に、生徒一人ひとりの名前をひらがなで表記したところ大変好評で、日本語への興味が一層湧いたようでした。

南京は中国の経済成長とともに目覚ましく発展しており、今の日本にはない上昇パワーがふれています。このように魅力的な南京市第一中学校との貴重な交流が、未永く続いていくことを願っています。

# Campus

中学校・高等学校

# Topics

キャンパストピックス

## 第66回高等学校入学式を実施



4月になっても気温が低い日が続いていますが、生徒たちの入学を待っていたかのように桜の花も開花し、283人の新入生を迎えてくれました。東日本大震災後はや一年が経過したものの、被災地の瓦礫処理や原発の問題など、まだまだ未解決の問題が山積する中、例年通り入学式を迎えられることの幸せを感じつつ、生徒たちも3年前に中学校に入学した時と比べ、心身ともに成長が感じられるしつかりとした面持ちで式に臨みました。

全員で校歌を斉唱したあと、校長式辞では長期的展望に立って考え、確かな目標を持って、「高校生だからできること、高校時代にしかできないこと」に挑戦し、「十年先、二十年先に役立つ人材に成長してほしい」との期待の言葉があり、続いての理事長からの励ましの言葉にも全員真剣な表情で聞き入っていました。式のあと、学年主任から入学後すぐに行われる「思索と対話の春合宿」の説明がありました。この形態での合宿を初めて経験した今春の卒業生は、卒業式の答辞の中で「今の自分を見つめ直し、未来像を考える中で自分の成長を感じ、私たちは高校生になったんだ」という自覚を芽生えさせてくれた貴重な体験だった」と述べていました。

この3月には中高完全一貫1期生が無事卒業し、淑徳中学校としての新しい歴史を作りつつありますが、その実績を継承すべく、それぞれの目標に向かって充実した高校生活を送ってくださることを願っています。

## 平成23年度中学校卒業式を挙行



中高が完全に一貫体制になって最初の中学校卒業式が、3月16日、大アリーナで行われました。高校ではすでに3月1日に卒業式を迎えており、それから半月あまり遅れての卒業式でした。

新校舎の完成と同時に7クラス体制で始まった中高完全一貫体制は23年度で完成し、春にはその第1期生が高校を卒業しました。高校の募集はないので、卒業生たちはほぼ同じメンバーで高等学校に進学することになります。9年間の義務教育を終える大きな一区切りの意味もあり、1、2年生や、父母、教職員が見守る中、今年も厳粛に卒業式が行われました。

学年の顔ぶれも校舎も変わらないからこそ、心の成長の区切りを付けるための大切な卒業式です。中学最上級生であるという自覚によってこそ、生徒たちは精神的にも大きく強く成長します。3年生たちは皆、真剣な表情で参加していました。一人ひとりの決意の強さを示すように、校歌もひとときわ強く聞こえました。

「卒業のことば」では、昨年の震災で卒業できなかった3年生を悼みつつ、絆と仲間を大切に思う心と、苦しみ乗り越えることで成長する強い意思を感じました。在校生の歌う「明日へつなぐもの」に答えるように歌った「信じる」は、3年間の中学校生活と自分の成長を噛み締めているような、心のコもった歌声でした。

中高がカリキュラム上連続しているからこそ、義務教育を終了し、自立した高校生を送る決意を確認するよい機会になったと思えます。この決意を忘れずに、素晴らしい高校生活を送り、さらに大きく成長していくことを心から祈っています。

## 中学校3年の中野愛さんがジュニア五輪水泳、200m平泳ぎで優勝



中学水泳部3年の中野愛が、3月末に「第34回JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会」(東京辰巳国際水泳場)に出場し、100m平泳ぎで第2位、200m平泳ぎで優勝しました(ともに13〜14歳の部)。

優勝した200m平泳ぎでは、前半は追いつけなかったものの、冷静なレース運びで終盤追い上げ、見事にトップを勝ち取りました。

続いて、4月に行われた「第88回日本選手権水泳競技大会」(東京辰巳国際水泳場)にも出場しました。全国のトップスイマーたちが集結するこの大きな大会で、緊張はあったでしょうが健闘しました。

全国大会に出場するレベルになると、当然ですが遠征が多くなります。不慣れた環境に身を置きながら日頃の努力の成果を発揮することは、想像以上に大変なことでしょすが、頑張っています。

毎日厳しい練習に取り組みながらここまで来ることができましたが、終着点ではありません。競泳選手として更なる上を目指し続けていきますので、今後の成長と活躍にご期待ください。